

研修会から ～ 情報教育スキルアップ研修会 ～

6月6日(金)に情報教育スキルアップ研修会が行われました。情報教育スキルアップ研修会は、昨年度までの情報メディア研修会と情報モラル研修会を再編し、今年度より行う新しい研修会です。

午前の講義では、株式会社インプレス こどもとIT編集部の神谷加代編集長に「AI 時代における情報教育の在り方について」についてご講義いただきました。最新の教育情報をご提供いただくことで、受講者の授業や校務改善への意欲が高まるとともに、**教員自身も社会の変化に対応して学び続け、社会の変化を踏まえた教育をする重要性を改めて認識**する機会となりました。

午後の講義は日本大学文理学部の中橋雄教授に「情報社会で求められるメディア・リテラシーの育成」についてご講義いただきました。前半の**メディア・リテラシーとは何か、それをどのように身につけていくのか**などの講義に続き、後半では、中橋教授が監修した「メディア・リテラシーかるた」を活用しながらメディア・リテラシーについて学びました。受講者からは「楽しみながら学べた」「授業で活用できそう」といった声が多数寄せられました。



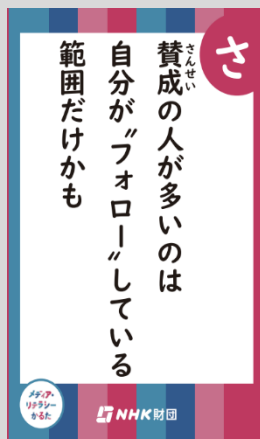
「メディア・リテラシーかるた」を活用しながら学んでいる様子

かるたで楽しく「メディア・リテラシー」を学ぼう！

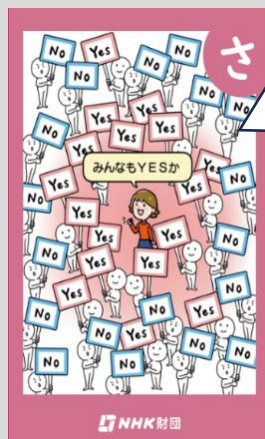
今回は情報教育スキルアップ研修会で扱った「メディア・リテラシーかるた」について、ご紹介します。このかるたは下記の二次元コードからどなたでも、ダウンロードして活用できます。

ゲームのルールは、普通のかると同じで①進行役が読み札を読み上げ、他の参加者が絵札を取り合います。その後、②④進行役の進行で、絵札を取った人が③解説をしたり、⑤解説を読み上げたりします。ポイントは絵札の裏側の「解説」です。進行役は、⑥声がけをし、必要に応じて解説を加えます。

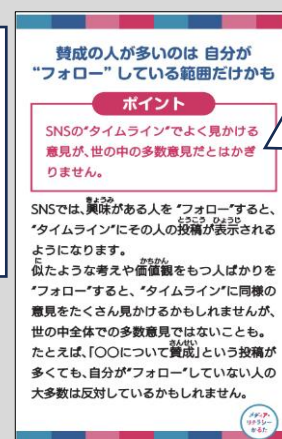
かるたのゲーム性と裏面の解説から考えることの多さが魅力となり、当日の研修会でも、大変盛り上がり、楽しくメディア・リテラシーを学ぶことができました。授業はもちろん、校内研修等でも活用してはいかがでしょうか。



①進行役が読み札を読み上げる ③絵札を取った人が説明



②進行役
「どんな絵が描いてあるか言葉で説明してみよう」



⑤絵札を取った人が読む

④進行役
「裏面の赤い文字をみんなに聞こえるように読んでみよう」

※「遊び方の解説」を参考

⑥進行役が「どう、意味は分かった?」と問いかけ、必要に応じて解説を加える

以下の二次元コードから、「ステラ net」でメディア・リテラシーかるたについて特集しているページ等を閲覧できます。

				
かるたの開発について(ダウンロード)	かるたの紹介	実践例1 (小学校の授業)	実践例2 (特別支援学校の授業)	実践例3 (大人のワークショップ)

「12のやめることリスト」～教師が学習者に向き合う環境を実現するために～

6月13日にデジタル庁から公表された「教育DXロードマップ」は、ご覧になりましたか？「教育DXロードマップ」は、誰もが自分らしく学べる社会という教育DXのミッションの実現を目指し、関係省庁が連携して施策を推進するための青写真と工程表を整理したものです。

このなかに、**教師が学習者に向き合う環境を実現するための「12のやめることリスト(デジタルに変えること)」**が掲載されていました。

☐	① 電話等による児童生徒の欠席連絡等の受付
☐	② 紙での保護者への調査・アンケート
☐	③ 紙での各種調査票等の学校から保護者への配布・保護者から学校への回収
☐	④ 紙での教職員への調査・アンケート
☐	⑤ 新入学児童生徒の名簿情報の校務支援システムへの不必要な手入力
☐	⑥ 電話や書面による保護者との日程調整
☐	⑦ 職員会議等資料の紙での共有
☐	⑧ 紙での児童生徒への調査・アンケート
☐	⑨ 学校から保護者へ発信するお便り等の紙での配布
☐	⑩ 教職員が作成した教材等の各自での保存
☐	⑪ 学校徴収金の現金徴収
☐	⑫ 紙での学校内外の行事日程や特別教室等に係る利用予約等の管理



教育DXロードマップ

(教育DXロードマップ「12のやめることリスト」(デジタル庁)を参考から作成)

学校だけでは実現できないものもありますが、Google フォームの活用等で**すぐに取り組みそうな内容も含まれています。どのようなことが実現できるか職員で話し合うことで、自校の校務DX推進のヒントが得られるかもしれませんね。**

「With タブレ」が児童生徒の個別最適な学びと協働的な学びをサポート！

※令和4年度長期研修研究成果物の紹介

児童生徒が考えをまとめたりする場面で、思考ツールを活用させている先生方も多いのではないのでしょうか？

右図は思考ツールの一つであるイメージマップの例です。一つのテーマから、関係のあることや思いつくことを入力し、マップ全体を見ながら考えを整理することができます。児童生徒に活用させたことのある先生も多いのではないのでしょうか。しかし、思考ツールを活用させる際に、**全ての児童生徒に同じ思考ツールを活用するよう指導していませんでしたか？**

思考ツールには、イメージマップの他にも、マンダラチャート、ベン図、PMIチャート、マトリックス、クラゲチャート、くま手チャート、ピラミッドチャート等の様々な種類があります。数ある思考ツールの中で、**特定の思考ツールが、全ての児童生徒に最適な方法とは限りません。**児童生徒が、自分に合った思考ツールを自ら選ぶことができることが必要です。しかし、これら一つ一つの手法を全ての児童生徒に教えようとすると時間も手間もかかります。

そこで、総合教育センターの令和4年度長期研修研究成果物である**「With タブレ」**を児童生徒が活用することにより、**児童生徒自身が自分に合った思考ツールを選び、活用することが可能となります。**各思考ツールの解説動画も1～2分と短く、授業中でも個人のタブレット端末から手軽に視聴できます。

そこで、総合教育センターの令和4年度長期研修研究成果物である**「With タブレ」**を児童生徒が活用することにより、**児童生徒自身が自分に合った思考ツールを選び、活用することが可能となります。**各思考ツールの解説動画も1～2分と短く、授業中でも個人のタブレット端末から手軽に視聴できます。

「With タブレ」は、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向けて、探究的な学習活動の多くの場面で活用でき、児童生徒が自ら学び方を選び、主体的に取り組み、課題を解決している学習が支援できるように工夫されています。児童生徒がいつでも活用できるようにタブレット端末に「With タブレ」をブックマークにしてみたいはいかがでしょうか。日々の学習活動の中で、是非活用してみてください。



個別最適な学びと協働的な学びをWithタブレがサポート

※思考ツールについては、サイト内で「Google Jamboard」のファイルとして提供されていますが、2024年12月のJamboardのサービスが終了に伴ったことに伴い、現在アクセスできなくなっています。活用に際しては、代替サービスホワイトボードアプリ「FigJam」等をご利用下さい。

(編集後記) 今号では、校内研修のネタになるような話題を中心に取り上げました。夏期休業中など、少しゆとりがある時に、先生方同士の対話のきっかけとしてご活用いただければ幸いです。[第41号担当: 齋藤]